

<ポイント版> ぎふ経済レポート（令和2年6月分）

【製造業】生産の落ち込みが続いている

- 製造業は、4月の鉱工業生産指数では、前月に続き化学工業が増加したものの、多くの産業では低下となった。ヒアリングにおいては、工場稼働率は徐々に回復傾向にあるものの、もとの水準に戻るには時間を要するとの声が聞かれた。

【地場産業】生産の落ち込みが続いている

- 地場産業は、4月の鉱工業生産指数では、家具で前月比増加したが、その他の産業で低下となった。ヒアリングにおいては、一般消費者向けの商品は回復の兆しがあるものの、業務用の商品は動きが鈍いとの声があった。

【設備投資】落ち込みが長期化している

- 設備投資は、5月の金属工作機械受注額について、前年同月を大きく下回った。前年同月を下回ったのは、国内向けは18ヶ月連続、海外向けは19ヶ月連続となった。ヒアリングにおいては、設備投資は老朽設備の更新など、必要最低限に留めるとの声が多くあった。

【個人消費】業態によって消費動向に差が見られる

- 個人消費は、小売店の5月の販売額について、コンビニでは落ち込みが続いたが、ホームセンターやドラッグストア等の販売が増加し、全体では前年同月比で4ヶ月連続の増加となった。ヒアリングにおいては、定額給付金の支給後に消費が増加したとの声が聞かれた。

【観光】新型コロナウイルスの影響が大きい

- 観光は、前年と比較し、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響による施設等の休業により観光地、宿泊施設ともに前年同月を下回った。インバウンドは、ほぼゼロとなった。ヒアリングにおいては、団体の宿泊は戻ってきていないが、個人の宿泊は徐々に戻りつつあるとの声があった。

【資金繰り】資金繰り確保のため積極的に制度融資が活用されている

- 企業の資金繰りは、5月の制度融資実績で、前月に続き、件数、金額ともに前年同月比で大きく増加した。金融機関からは飲食業など早くから影響が出ていたところでは回復傾向にある話も聞くが、影響が出るのが遅かった製造業や建設業で、ここ最近売上に影響が出ているなど、業種によってタイムラグがあるとの声が聞かれた。

【雇用】急激な雇用環境の悪化傾向が見られる

- 雇用面は、5月の有効求人倍率は、1.40倍と60ヶ月ぶりに1.4倍台の水準にまで低下した。ヒアリングにおいて、雇用調整助成金や休業などでワークシェアしているとの声が聞かれたが、一部では派遣労働者の契約更新を見合わせるとの声もあった。

【景気動向】

景気動向指数（一致指数）と中小企業の景況感は悪化した。